

高分解能気象予報モデルを用いた比良おろしメカニズムの解明 Elucidation of the mechanism of the downstream gust wind using high resolution weather model

東 邦昭^{1*}; 古本 淳一¹; 阪本 洋人¹
HIGASHI, Kuniaki^{1*}; FURUMOTO, Jun-ichi¹; SAKAMOTO, Hiroto¹

¹ 京都大学生存圏研究所

¹Research Institute for Sustainable Humanosphere, Kyoto University

比良おろしは空間スケールが数 100m~1km 程度で、琵琶湖西岸の比良山地山麓の約 10km の区間に発生するおろし風である。このおろし風は事例により発生する場所や継続時間が異なることが観測から明らかであるが、詳細なメカニズムは空間スケールが小さいことや時間変動が大きいこと、背景にある複雑地形の存在などにより明らかにされていない。本研究では比良おろしが頻繁に発生する 2013 年 10 月~2014 年 3 月までの半年間にわたり、10m 分解能の地形、高分解能湖水温データを気象予報モデルに入力しシミュレーションを行った。比良おろし発生事例と非発生事例の大気構造を比較しつつ比良おろしの発生メカニズムの解明を図る。

キーワード: おろし風, 突風, ミクروسケール気象, 大気境界層, 大気シミュレーション

Keywords: downslope wind, gust wind, microscale weather, atmospheric boundary layer, weather simulation